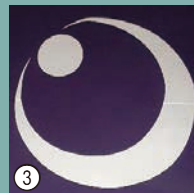


宗内寺院紹介 94

北総教区小見部

富光山 大乘聖院

徳星寺



①本堂 ②楼門・阿吽像 ③寺紋 ④寺額(江戸幕府御用筆佐々木玄龍書)
⑤十万石格式御籠 ⑥竹林七賢図屏風

徳星寺は、寺伝によると天平十九年行基菩薩によって現在の香取市田部元道にて開創、後に小見の富光(現在の吉野平)へ移り、南北朝時代に現在の地へ移ったとされている。この際、小見城主千葉胤廣の三男・良海法印が城跡および土地を寄進し、中興第一世住職となった。そのため、当山の寺紋には千葉氏の月星紋を用いている。

江戸時代には寛永寺の直末として関東天台宗八伴頭寺に名を連ね、三代將軍家光公の代には十万石大名の格式を認許されると共に大乘聖院の額を下賜された。現在でもこの額と住職が使用していた駕籠は本堂内に所蔵されている。本堂は元禄八年の再建で、内陣と外陣が障子で遮断され廻廊とは腰高の壁で覗くことができない密教道場の名残を、明治、昭和の改築を経た今もなお残している。文化財として、小見川城主寄進状(千葉胤尚筆)、慈眼大師御証文、末門座配記録、十六羅漢掛軸(中華国周丹士筆)、竹林七賢図屏風等々がある。

北総教区小見部

富光山 大乘聖院 徳星寺

住 所／〒196-0002 千葉県香取市小見1047

電話番号／0478-78-2529